

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	若林保育園	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会		

平成 30 年 3 月 2 日

総 評	<p>若林保育園は昭和56年に開設された山科の閑静な住宅地の中にある定員60名の保育園です。</p> <p>「創造性」を保育理念に掲げ、「心の育ち」「本物に触れる」「食べるを育む」「家庭との密な連携」を大切にしており、自然に触れたり、造形や絵画に取り組んだり、心が動かされるような体験を多く取り入れ、子どもたちが楽しめるような保育を心がけています。特に「心の育ち」が健全に育まれるよう努めています。</p> <p>琵琶湖に園所有のヨットがあり、専門の指導者のもと毎年4月から8月にかけて3歳児から5歳児がヨットを体験するヨット保育を行い、自然や本物の体験をねらいとして取り組んでいます。また、月2回は彫刻家による造形活動を行い、ここでも本物に触れることや心の育ちが促されるよう、保育者は手伝えることはせず、子どもの創造性に寄り添った保育を大切にしています。</p> <p>園長は、これらの保育内容が充実するよう、保育実践を行う職員の就労状況の改善に努め、時間をかけるべき部分と業務の省力化が図れる部分をできるだけ明確にし、ICT化や有給休暇の取得100%などを含め、ワーク・ライフ・バランスの向上に取り組んでいます。</p> <p>園長と主任は協働し、保育内容が子どもの主体性を大切にしたものとなるよう取り組んでいます。60名定員ならではの園全体で一人一人の子どもを見守る家庭的な雰囲気があり、全ての園児、保護者、職員全員がお互いを知り、顔がみえる環境を活かし、子育て家庭との双方向のコミュニケーションを大切に、日々の保育に取り組んでいます。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正規職員雇用を進め、全職員をフルタイム雇用にし、休憩が取れる体制やOJT研修などにも取り組むと共に有給休暇の取得率も100%を維持しています。 ・ 年度末に、無記名の保護者アンケートを実施し、園に対して意見や要望を述べやすいよう工夫しています。それに対する回答をまとめ、保護者に配布すると共に保育内容に反映するようにしています。 ・ 職員配置の充実により、余裕を持って保育が出来るよう配慮し、大きな声で怒ることなく、子ども自身の気づきを促すよう、気持ちを受容できるよう努めています。 ・ 園庭は全面に白川砂を敷き詰め、毎朝、トンボで整備し、春から秋にかけては裸足で遊べるようにし、冬場でも靴下のみで遊べるよう整備しています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の福祉ニーズに基づいた事業にも取り組み、園が有する機能を還元できるよう取り組まれると良いでしょう。 ・ 個人情報保護に関する内容を口頭により職員に周知し、ホームページ等への写真掲載などの同意書も取っています。今後は、それらの内容を明文化し、職員間で共通の理解を持って取り組めるよう整備されると良いでしょう。 ・ 虐待防止や発見した場合の対応は、職員間で確認し対応していますが、それらの内容を明文化し、職員間で共通の対応ができるよう配慮されるとより良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

【様式 9-2】

【保育所版】 評価結果対比シート

(注) 判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	若林保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	平成30年 3月 2日

保育所評価基準 対比シート (H29年4月～)

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	頁番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
		3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	a
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	a
		5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	a
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	a
		7	②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	a
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	a
		9	②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	a

[自由記述欄]

・保育の理念、基本方針、目標が明文化されており、職員には新年度最初の会議で、保護者には4月の全体懇談会で配布し周知しています。園長は、行政や病院での経営・労務の経験を活かし、役所、近隣保育園だけでなく大手学習塾などからも情報収集を行い経営分析に努めています。それらの内容をまとめ、職員会議等で職員からの意見等も情報共有したうえで経営課題を明確にし、それに対する取り組みを行っています。また、単年度、中長期の計画を収支を伴って策定しています。それらの内容から保育に関する事を中心に保育運営方針を作成し、保護者に配布し周知を図っています。

・園長は、月1回開催の全体職員会議、クラスごとの保育委員会に参加し、保育の内容が園の方針に沿ったものとなるよう努めています。事業計画の策定及び実行については園長が提案し、主任を中心に職員の意見交換を行い進めています。保育内容については保育課程、月間指導計画をもとに保育委員会で話し合い、園長・主任と共に評価反省を行っています。修正箇所も多く、その内容は次の計画に反映されています。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	a	
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	a	
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a	
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a	
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	a	
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	a	
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	a	
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	a
			18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	a
	II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a	
		20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	b	
	II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	a
22			② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	b	
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	b	
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	b	
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	b	
		II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	b	b
			27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	b

[自由記述欄]

・超過勤務削減のためICT化を進め、時間をかけるべき部分と省力化できる部分をできるだけ明確にし、対応するようにしています。また、正規職員雇用を進め、全職員をフルタイム雇用にし、休憩が取れる体制やOJT研修などにも取り組むと共に有給休暇の取得率も100%を維持しています。特に、新人職員には先輩職員からマンツーマンで仕事を教わり、質問・相談できるようにしています。

・キャリアパスを策定し、階層別の研修も明記しています。参加した研修は、内容によって園内で発表し内容を共有しています。また、研修報告は全職員が閲覧できるようにしています。職員と管理者との面談を年1回実施し、自己評価と人事考課シートに基づいて話し合い、園に対する要望や意向と共に職員の目標や取り組みについて確認し、職員の質や処遇向上に繋がるよう努めています。実習生の受け入れについては、園独自のプログラムや手順を明記したマニュアルを整備されるとより良いでしょう。

・運営内容や財務内容については、ホームページで公表しています。今後は、外部機関による監査の活用等によりチェックを実施されるとより良いでしょう。

・評議員会は全員地域の方で構成されています。地域の民生委員・児童委員とも定期的に連絡会を設けたり、災害時の地域における園の役割についても確認しています。近隣の児童館と連携してお散歩マップを作成するなど取り組んでいます。今後は、地域の福祉ニーズにもとづいた事業にも取り組み、園が有する機能を還元できるよう取り組まれますと良いでしょう。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a	
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	b	b	
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a	
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a	
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	b	
	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a	
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a	
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a	
	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a	
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a	
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	a	
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	a	
	Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	a
			41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a
		Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a	a
43			② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	a	
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	a	
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	b	

[自由記述欄]

・個人情報保護に関する内容を口頭により職員に周知し、ホームページ等への写真掲載などの同意書も取っています。今後は、それらの内容を明文化し、職員間で共通の理解を持って取り組めるよう整備されると良いでしょう。

・転園に際しては、保護者の了解を得て転園先の園に情報提供を行っています。今後は、転園時の保育の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めると共に重要事項説明書に盛り込むと良いでしょう。

・年度末に、無記名の保護者アンケートを実施し、園に対して意見や要望を述べやすい工夫をしています。それに対する回答をまとめ、保護者に配布すると共に保育内容に反映するようになっています。

・事故発生時の対応マニュアルを整備すると共に各クラスにヒヤリハット報告書を作成し、年1回ヒヤリハット会議を開催し、事例研究を行っています。感染症対策マニュアルも整備し、発生時の対応も適切に対応しています。

・保育課程に基づき年間指導計画、各種短期指導計画を策定し、クラス別の保育委員会で全職員が意見交換できるよう努め、ケース会議や保護者から意見等を踏まえ次の計画に反映させ、職員間でその内容を共有するようになっています。子どもに関する記録も手順にそって行っています。今後は、子どもの記録の保管、保存、廃棄等について規定を定められるとより良いでしょう。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-1 (1) 保育課程の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a	a
		47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	a
	A-1-1 (2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	a
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a
		51	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	b
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a
		A-1-1 (3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a
	58		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
	59		③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	a
	A-1-1 (4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

【自由記述欄】

・一人一人の子どもの状態に応じた保育を行っており、会議などでも職員が共通の意識を持って取り組めるようにしています。異年齢の縦割り保育も行い、子ども自身が年下の子を世話したい気持ちや、年上の子に憧れるなどの自主的な気持ちを持てるよう配慮すると共に、主体的な子どもの活動を尊重する保育実践を心がけています。彫刻家の指導による創作活動においても子どもの主体性を尊重した保育を大切にしています。

・職員配置の充実により、余裕を持って保育が出来るよう配慮し、子ども自身の気づきを促すよう、気持ちを受容できるよう努めています。園庭は全面に白川砂を敷き詰め、毎朝整備したうえで、春から秋にかけては裸足で遊べるようにし、冬場でも靴下のみで遊べるよう整備しています。伝承遊びにも取り組んでおり、コマ回しやけん玉などに取り組めるよう工夫しています。

・乳児保育は、育児担当制を取り入れ、保育者と子どもとの信頼関係が築けるよう配慮しています。1歳から2歳児クラスも、ゆるやかな育児担当制を取り入れており、子どもと保育者の気持ちが寄り添えるよう努めています。

・障害児保育については、関係機関と連携し保護者を含めたカンファレンスを定期的開催しています。支援の必要な子どもの様子に合わせた玩具などを用意し、パーソナルスペースを確保するなど保育の方法や内容に配慮しています。

・延長保育のための環境を整備し、ゆったりと家庭的な雰囲気の中で過ごせるよう配慮しています。今後は、月間指導計画などに長時間保育についての計画を記入・作成されるとより良いでしょう。

・子どもが楽しく食事ができるよう行事食を毎月1回実施すると共に、ハンバーガーパーティー、たこ焼きパーティー、豚汁パーティーなど毎月パーティーと称して、クッキング保育を行っています。食材は園庭菜園で取れた野菜を中心に使用し、収穫体験や調理体験が興味を持って取り組めるようにしています。管理者と給食室職員で月1回、それらの内容などを含めて給食委員会として開催しています。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者等の支援	63	① 保護者等が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b	b
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	a

[自由記述欄]

・年1回家庭訪問を実施し、全ての保護者と面談しています。2～5歳児は年2回の保育参観、0・1歳児は2週間の中で自由に参観日を選べる保育参観を実施し、全員に必ず参加してもらい、園の方針や保育の様子を見てもらうようにしています。他に、年1回クラス懇談会を開催しています。

・虐待防止や発見した場合の対応は、職員間で確認し対応していますが、それらの内容を明文化し、職員間で共通の対応ができるよう配慮されるとより良いでしょう。

・職員個人の自己評価を人事効果シートで行っています。また、クラスごとの保育の振り返りシートの項目に沿って保育内容の見直しも実施し、次年度に評価・反省を活かせるようにしています。